

# No. 5 百科事典の使い方

## 1. 知識として伝えたいこと

百科事典の引き方を身につけることで、子どもたちが自分で調べて、知る楽しさや学ぶ楽しさを感じることができる。

- 百科事典を使うと物事の基本的なことを調べられる。
- 何を課題にしたらよいか困ったときに、百科事典を見て、課題探しにも役立てられる。
- 五十音順、教科別、主題別等の百科事典がある。
- 国語辞典は、言葉で簡潔に説明してあるが、百科事典は事柄を言葉、絵、写真、図、表、地図などを用いて詳しく説明してある。百科事典は、分冊されていて全部合わせて1セットで構成されている場合が多い。
- 国語辞典と百科事典を比較して捉えていくことで、特長と役割の違いが理解しやすい。

国語辞典の「辞」はことば、百科事典の「事」は事柄、「百科」とはあらゆる分野という意味。

## 2. 指導のポイント（小学校3年生か4年生の国語教科書を参照のこと）

百科事典のしくみ・使い方について学ぶ時間を確保する。国語教科書に掲載されている。例 光村図書/4年下 学校図書/3年上・4年上 東京書籍/3年下 教育出版/4年上

### ○百科事典の引き方

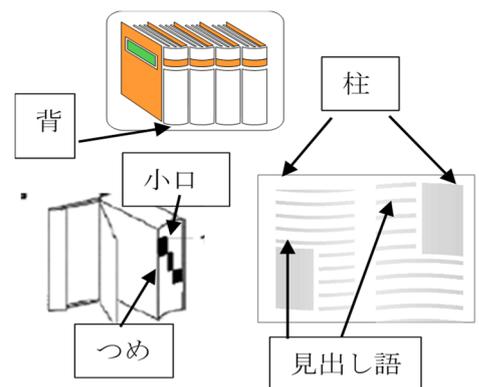
- ・百科事典の見出し語も五十音順に並んでいる。
- ・「背」「つめ」「柱」「見出し語」の言葉を押さえる。
  - ①「背」や「表紙」を見て、調べたい事柄の「巻」を見つける。
  - ② 小口にある「つめ」を見て、大体の目当てをつけて本を開く。
  - ③ ページの上にある「柱」を見て、ページをめくり調べたい「見出し語」が載っているページを限定する。
  - ④「見出し語」を左上から、順にみていき、探し当てる。
    - ・見出し語はカタカナでも、柱はすべてひらがな表記である。
    - ・見出し語の順番は五十音順なので、国語辞典と同様である。
    - ・清音・濁音・半濁音の順も促音・拗音・長音の引き方も国語辞典と同様である。
    - ・百科事典『ポプラディア』の本文中の青字の言葉は、『ポプラディア』で調べることができる。

### ○索引巻は調べたい見出し語が五十音順に並び、何巻何ページに載っているかを紹介している。

例) 『ポプラディア』 第2版 索引巻の矢印「→」の意味

なみだ 8巻 50ページ	→ 外分泌	「外分泌」という見出しの中にも「なみだ」に関する記述があるので「外分泌をも見よ」という意味
ナミテントウムシ	→ テントウムシ	「ナミテントウムシ」という見出し語はないので「テントウムシを見よ」という意味

\* 書画カメラやパワーポイントなどを用いて事典のページを拡大して掲示し説明するとよい。



## 3. 指導の工夫

使い方をひとつおし説明したら、百科事典を使った活動を工夫してみよう。

- 6人グループ1セットで学習できるように百科事典のセットを準備する。学校の蔵書で不足する場合は公共図書館等で借りる。6人グループで1セット準備できないときでも、1人1冊は使える冊数を準備する。
- 百科事典の使い方の説明とクイズの取組みとで1時間の授業で実施できる。
  - クイズ形式の問題で調べる練習をする。巻ごとにクイズを作成しておく。

《クイズ例》  
<https://www.j-sla.or.jp/sl-support/hyakkazitenq.pdf>

## 4. 発展的な学習

- 百科事典を使って自分が調べたい事柄を調べ、分かったことを情報カードにまとめていく。